

自慢ののどと踊りを披露

第25回全県素人うたとおどりの美郷フェスティバル2014

3月23日に美郷町南体育館で第25回全県素人うたとおどりの美郷フェスティバル2014（同実行委員会主催）が開催されました。今年も県内各地から多くの参加があり、予選を勝ち抜いた総勢61名が「カラオケの部」「新舞踊の部」「民謡の部」の3部門で自慢の「うたとおどり」を披露しました。町内の受賞者は次のとおりです。

【カラオケの部】 第3位 西鳥羽和幸さん
【新舞踊の部】 優勝 佐藤レエ子さん、準優勝 中野 孝子さん
大会特別賞 石川 洋子さん、AKT賞 伊藤伊津子さん



美郷町商工会・美郷町企業連携協議会 新入社員の集い

3月26日に名水市場湧太郎で美郷町商工会（近藤道哲会長）と美郷町企業連携協議会（檜森吉裕会長）による新入社員の集いが開催され、この春、町内企業に入社する13事業所30名と関係者などが出席しました。式では、主催者による激励のあいさつに続き、新入社員を代表して相田美緒さんが「美郷町とともに汗を流し、ともに困難を乗り越えて、それぞれの企業の繁栄と地域社会の発展に貢献したい。社会人として成長できるよう、決意を新たに日々精進していきます」と抱負を述べました。

式典終了後には研修会が開催され、北都銀行人事部の伊藤末子さんがあいさつや言葉遣いなどのビジネスマナーについて指導しました。



生涯学習活動やボランティア活動の拠点に 美郷町住民活動センターがオープンしました

4月1日、「美郷町ふれあいセンター」から名称変更した「美郷町住民活動センター」でオープニングセレモニーが開催されました。セレモニーには、日ごろから住民活動やボランティア活動に取り組むNPO法人みさぼーなど約40名が出席。松田町長とセンターの指定管理者である同法人の戸澤勉理事長によるあいさつの後、関係者によるテープカットが行われました。

美郷町住民活動センターでは、芸術、文化サークルなどの生涯学習活動も行うことができます。お気軽にご利用ください。

■美郷町住民活動センター ☎0187(84)4922



交通事故のない地域を目指して 春の交通安全運動

春の交通安全運動の実施に併せて、4月7日に大仙警察署美郷交番で美郷地区交通安全協会（清水源悦会長）の祈願祭が行われました。祈願祭には、交通安全協会会員や警察署員、町職員ら約30名が出席。読経、拝礼に続いて、清水会長は「今年は美郷町が誕生して10周年の年。事故を減らし、死亡事故ゼロを目指そう」と今年の交通安全を誓いました。

また、4月8日から10日にかけて、町内3カ所でテント村を設置し、交通安全協会会員や交通指導隊員、美郷のミズモらが道行くドライバーに交通安全を呼び掛けました。



MISATO TOPICS 町の話題



修学旅行先でも町の魅力発信

友好都市東京都大田区で 美郷中学生が町のPR活動

4月11日、美郷中学校の3年生が、友好都市東京都大田区で特産品などの町のPR活動を行いました。この取り組みは、子どもたち一人ひとりが主体となって町の魅力を広く発信しようと、昨年度より修学旅行のメニューの中に取り入れて実施しています。

今回、美郷中学校では3年生約90人が3班に分かれ、蒲田駅東口、西口で美郷米（2合入り）や町観光パンフレットを配布したり、美郷町の特産品でもある仁手古サイダーの試飲や名水ラスク等の試食を行いました。通行人からは、「修学旅行でこのような活動をするのは非常に珍しい」「中学生にとっても非常に良い経験になると思う」という声が上がると、とても大きな反響がありました。



かわいい子の旅

美郷町長 松田知己

風



美郷中学校入学式であいさつを述べる松田町長

「かわいい子には旅をさせろ」。みなさんもきくと耳にしたことのある諺ことわざです。「我が子が可愛いなら、親の元に置いて甘やかすことをせず、世の中の辛さや苦しみを経験させたほうがよい」という解説がありました。作家の野田知佑さんは、親元を離れて川での生活を体験させる「川の学校」を主催しておりますが、あるテレビ番組で「（親元を離れた）寂さびしさが子

どもを成長させる」とおっしゃっていました。また、同じ番組で作家のあさのあつこさんは、「（親元を離れる経験は）子ども心の筋肉を付ける」とおっしゃっていました。「まったくその通りだ」と思います。そして今月、親元を離れた人が心の筋肉を試される5月になりました。私事で恐縮ですが、遡さかのぼること32年前の私もこの時期、一人暮らしの心細さを乗り越えようとしていた一人でした。一方、反対の送り出す立場になってみると、「親も同じなんだな」ということが最近よく分かりました。親としての心の筋肉、充分でないことを自覚です。その意味で、冒頭の諺は実は子どものみならず、親の成長も促す諺なのかも知れません。

さて今月、美郷町は「かわいい子には旅をさせろ」を実践します。町の独自品種「美郷雪華」を旅に出します。しかも、場所はラベンダーの本場、北海道は中富良野町です。町固有の地域資源を活用して、できる限り全国的に美郷町の存在感を高めるとともに、他自治体と新たな縁を結ぶことで交流人口や観光客の来町を促進し、結果として一層の地域活性化につなげる目的です。なおこの度は、中富良野町からもラベンダー株の贈呈を受けますので、双方の町営ラベンダー園で看板を設置し、PRに努めていく予定です。まずは、美郷雪華が北海道の自然環境と鑑賞環境においても「いい品種だ」と認められ、その意味で鍛えられた品種に成長することを望みたいと思います。ルームフレグランスの発売や可能性ある酵母の発見。そして今回は本場北海道への旅立ち。みなさんの美郷雪華は、なかなかの素質の持ち主です。